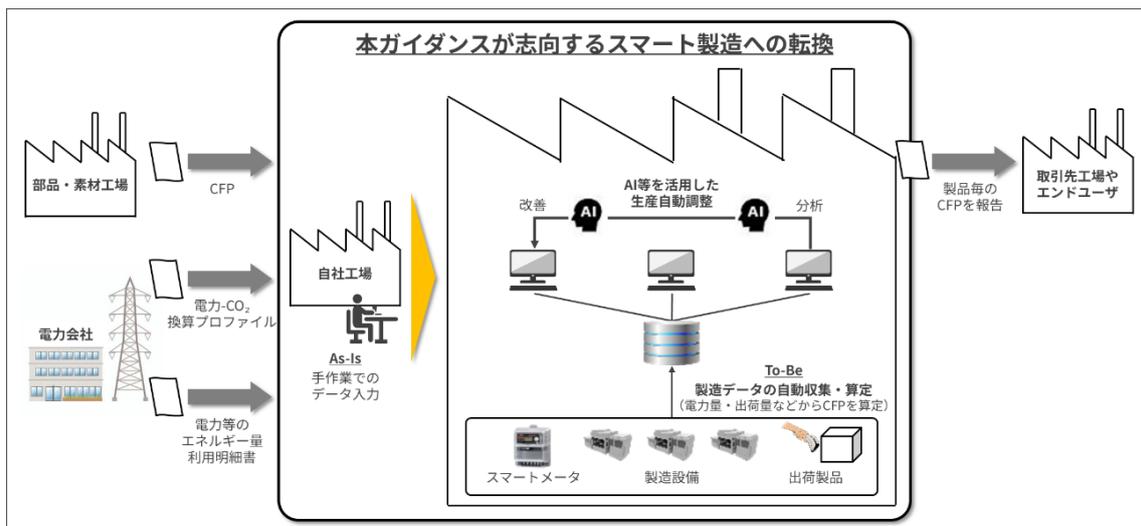


2026年3月6日

報道関係各位

一般社団法人電子情報技術産業協会

Green x Digital コンソーシアム、  
製造業における脱炭素の高度化に向けた CFP 自動収集・算定ガイダンスを公開  
— 生産段階の1次データ活用を体系化 —



一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA：代表理事/会長 漆間 啓 三菱電機株式会社 代表執行役 執行役社長 CEO）が事務局を務める Green x Digital コンソーシアム（読み：グリーン カケル デジタル コンソーシアム）は、本日、製造業におけるカーボンフットプリント（CFP）算定の高度化に向け、生産段階の1次データを自動収集・算定するための考え方を整理した「スマート製造を目指した CFP 自動収集・算定ガイダンス」を公開しました。本ガイダンスは、スマート製造の進展を踏まえ、CFP 算定に必要なデータ項目、収集方法、データ品質確保の考え方などを体系的に整理したもので、企業が段階的に排出量算定の自動化に取り組むための基盤を示すものです。

同コンソーシアムの環境活動データ価値化ワーキンググループ（主査：東 義一 株式会社リコー）は、環境負荷低減に資する製品・サービスが持つ付帯価値（グリーン価値）が市場において適切に評価される枠組みの構築を目指し、企業による環境活動の実績データを計測・評価・管理するための共通課題の整理や解決策の検討を進めています。近年、CFP 算定における1次データの信頼性向上や、スマート製造技術を活用した自動収集への期待が高まっていることを受け、2024年9月にデータ要件検討サブワーキンググループ（リーダー：藤島 光城 三菱電機株式会社）を発足しました。生産段階のデータ構造や収集方式、配分方法などに関する検討を重ね、このたびガイダンスとして取りまとめました。

本ガイドンスでは、生産段階における CFP 算定に必要となる基本項目の整理に加え、データ品質確保の考え方、1 次データへの移行ステップ、配分およびカットオフの考え方、さらに生産システムと連携した自動算定の方向性を解説しています。本ガイドンスの活用を通じて、CFP 算定に取り組む企業や関連事業者におけるデータ活用の高度化・省力化の実現を目指します。本ガイドンスの全文は下記の Web サイトをご参照ください。

スマート製造を目指した CFP 自動収集・算定ガイドンス：

[https://www.gxdc.jp/pdf/CFP\\_automatic\\_collection.pdf](https://www.gxdc.jp/pdf/CFP_automatic_collection.pdf)

今後、データ要件検討サブワーキンググループでは、本ガイドンスに基づく製造現場での活用検証を進め、実運用を通じて得られた知見を反映した継続的な高度化に取り組む予定です。Green x Digital コンソーシアムはデジタル技術を活用した脱炭素の社会実装を通じて、産業界全体の持続可能な成長に貢献してまいります。今後の取り組みにつきましては、随時発表いたします。

#### ■Green x Digital コンソーシアム（グリーン カケル デジタル コンソーシアム）

環境関連分野のデジタル化や新たなビジネスモデルの創出などの取り組みを通じて、2050 年カーボンニュートラルの実現に寄与することを目的に、2021 年 10 月に設立。サプライチェーンにおける CO<sub>2</sub> 排出量の可視化や再生可能エネルギー導入、企業の環境貢献活動に対する評価の枠組み作りなどをテーマに会員間の共創促進を図る活動を展開する。座長は越塚 登（東京大学大学院 情報学環教授）。会員数は 123 社（2026 年 1 月 28 日時点）。Web サイト：<https://www.gxdc.jp/>

#### 【本件に関する企業関係者からのお問合せ先】

Green x Digital コンソーシアム 事務局

（一般社団法人電子情報技術産業協会 事業戦略本部 グリーンイノベーション部）

E-mail：[green\\_digital@jeita.or.jp](mailto:green_digital@jeita.or.jp)